

令和7年度 第1回社会教育委員会会議録

日 時 令和7年7月11日（金）9時30分から12時05分

場 所 市役所5階 小会議室

委 員 委 員 長	松尾 弥生
副委員長	高瀬 由美
委 員	田中 亨胤
委 員	谷勝 公代
委 員	中村 和子
委 員	河合 新一
委 員	橋尾 恵美
委 員	難波 利克
事務局 教 育 長	菅野 恭介
教育部長	伊藤 勝
生涯学習課 課長	北島 悦乃
生涯学習課 課長補佐	増田 浩和
生涯学習課 職員	藤井 優佳
総合教育センター 所長	三村 尚彦

1. 開会（事務局）

2. 社会教育委員長あいさつ（委員長）

おはようございます。

先日、青少年補導委員の研修会で、明石市に伺いました。最近、青少年補導委員の仕事も随分変わってきてまして、以前ですと、お祭りのときの補導など非行防止が主でしたが、最近はホワイト案件のアルバイトの話やSNSの誹謗中傷といったことに話が変わってきています。どの分野もそうですが、時代や環境によって変わってくるものだということを実感しました。

また、驚いたのは、兵庫県下で投資詐欺とロマンス詐欺が非常に多く、だまされるのは高齢者ではなく40代から60代の人だということを警察の方から聞きました。なんと92億もだまされという話があって、「儲かる」ということと、「好き」ということは強いなと思ってお話を聞きました。

自分の目で見て考えるということが子どものうちから必要だと思います。危険から遠ざけるのではなく、できるだけ多くの人に触れて、いろんなことを知って、自分の頭で考えて感じて、そういう子どもたちを育てていくことが必要なのだと改めて思いました。

今日は青少年関係など総合教育センターの取り組みを聞かせていただくことも楽しみにして参りました。よろしくお願いいたします。

3. 教育長あいさつ（教育長）

～教育長あいさつ～

4. 報告事項

（1）令和6年度社会教育活動の実績について

～生涯学習課及び総合教育センターより説明～

（委員C）

3ページの女性研修講座というのは、どういう方が参加されていたのでしょうか。というのも、まちづくり課では各自治会に女性役員を登用するという事業をしていますが、そちらとの連携はできているのでしょうか。

また、50ページの文化財の出前講座というのは、加西らしい大変いい取り組みだなと思って聞いていました。ただ、私の場合は、もう1歩踏み込んで、子どもたちが聞いた中で自分たちのふるさについて調べようという総合学習的なことをやっていた。聞いて「そうなんだ」で終わるのではなくて、自ら調べてそれを発表する機会を持たせてやっているのかどうか気になっています。そこは、コミスクが機能するところだとも思っています。

（事務局）

女性研修講座については、加西市連合婦人会の総会の後に実施されたもので、婦人会の会員や女性団体連絡会の各団体長に参加していただきました。まちづくり課の事業との連携はできていません。

出前講座については、生涯学習課の文化財担当職員が地域や小学校に出て授業をしたものです。地域の方と連携したという点で言いますと、賀茂小学校の6年生を対象にした講座があります。こちらは、ふるさと創造会議の方々の主導で、小学校の先生方とやりたい内容を話し合われ、その要望を受けて私たちが資料づくりや当日の講座を受け持ったものです。

委員Cがおっしゃった、子どもたちが自ら学ぶことは本当に大事なことで認識していますし、そういった講座を開催していけたらいいなと思っているのですが、その後の学校の授業とのコラボというところまでの話は出来ていない状況です。

（委員C）

（女性研修講座について）縦割りにしない方がいいと思います。よろしくお願いいたします。

（出前講座について）コミスクをする意義はここだと思います。子どもたちには、何を調べたいかの「きっかけ」があるので、文化財担当の方が学校に来られて話を

聞くのは、すごく良いきっかけになると思います。そうすると、子どもたちに自分たちのふるさとの何を調べたいかと聞いたときに、子どもたちからいろいろと出てくるわけです。それで地域へ出て行くのですよ。コミスクがあると、そこが円滑にいくと思います。実際、規模が大きい学校ほど地域と学校が分断されている部分も大きいと思いますが、小さい学校はどうまく繋がっていると思います。コミスクで狙うところをきちっと整理をされて、良さを活かしていくことが大事なかなと思います。子どもたちは聞くだけだったらもったいないかなと思います。

特に6年生は人権学習的な内容がすごく出てきます。そういうところもやれたらいいかなと思いました。

(副委員長)

担当がどこになるかはわからないのですが、ジュニアリーダーのような活動はもうされていないのでしょうか。

子どもたちのリーダーシップを育てていく仕掛けが全体的に足りてないのかなと思います。大人が子どもに知識を教えることは、もちろん学校でもされていますし、すごくたくさんあると思うのですが、次の段階としては子どもたちが自ら動き出すことが必要で、それが教育振興基本計画にも書かれているのかなと思います。

例えば、今ある行事に子どもたちが主体的に関わってくるような形をとってもいいですし、新しいことを始めてもいいと思います。そういう行事ごとに対して、子どもたちが主体的に動けるような事業が1つあるといいかなと思います。

(事務局)

ジュニアリーダーというのは当課の担当です。ジュニアリーダーの講座は、開催してもなかなか人が集められないという現状もあった中で、対象は少し下の年齢になるのですが、オークタウンで小学生を対象にしたアドベンチャークラブという体験活動を高校生や大学生と触れ合いながら行っています。

副委員長がおっしゃったような形では現状できていないのですが、アドベンチャークラブも、そこに参加してもらっている地元の高校生や大学生は必ず、その中のリーダーという位置付けで一緒に体験活動をしています。その関わりの中で互いに学び合うというのが今の形です。直接的ではないですが、その子たちにリーダーとして一緒に活動をしてもらうというところは意義があるのかなというふうに見ています。ただ、そこが弱いというご指摘は、これから考えていかなければいけない部分だと思っています。

(委員長)

ジュニアリーダーとアドベンチャークラブ、アドベンチャークラブの方が低学年でジュニアリーダークラブは小学校高学年から中学生にかけてのグループでしたね。

一度なくなったものですので、アドベンチャークラブの総参加者数118人という数字を見て、ここまで復活させているのがすごいかなと思いました。

これはこれで本当にすごいんですけど、副委員長が言われたように、中学生の年代のところも手を入れてあげると、加西のリーダーが育つのだと思います。例えば、リーダーの募集チラシを一緒に作ってあげるとか、リーダー養成研修をやりませんかとか、教育委員会も力を入れてサポートしてあげるといいと思います。自前で研

修するのが難しければ、兵庫県下の研修に行くためのお金を出してあげるなどそういうサポートができたらいいいのではないかなと思いました。

また、生涯学習課活動のあゆみを拝見しまして、いいなと思ったところがいくつかありました。

まず、4ページの自転車ルールと救急救命体験のところで、自転車のルールが大きく変わるので、本当に旬の事業だなというふうに思いました。

次に、5ページの草刈り講座は社会的課題ですので、いい事業だなと思うのですが、その下の脱出ゲームは、目的や内容がわからないので、あとで教えていただければと思います。

次に、青い鳥学級ですが、青い鳥学級は視覚障がい者に向けての講座が当番制で回ってくると思うのですが、やはり圧倒的に講演会的なものが多い中で、ヨガというのは良い事業だなと思って拝見しました。

次に、公民館の「かしの木学園」です。年間プログラムというものがあると思うのですが、以前は、「人権学習」とだけ出て、誰が来るのかわからない、何を聞けるのかもわからないということがありましたが、今は公民館の方々がよく頑張っておられて、キャッチコピーなどで何とか良さを伝えようと努力されているように思います。それによって参加者数が少しでも増えましたかというところを聞きたいです。

(事務局)

脱出ゲームは、丸山公園を会場に、5つの地点を決めて、その地点ごとに加西中学校の生徒が作った問題を解いてもらい、クリアを目指すという内容です。STEAM教育の一環で、株式会社ジオグリフに依頼をして考えていただいた企画になります。目的としては自分たちで考え、実際に調べるところで、当日参加者だけではなく、その準備段階の加西中学校の生徒にも働きかけています。

かしの木学園の参加者については、令和5年度は2555名で、令和6年度が2612名のということで増加しています。

(委員長)

企業が考えて実施したら、教育委員会が実施する必要がないのではないかなと思ったのですが、中学校の生徒も事前学習をされたという話で、そこを企業と協力して形にしていたのは、非常に大きいかなと思いました。

高齢者大学はどこの市町も参加者数が減っていくのが当然ですから、そのなかで増えているというのはすごいことです。

(委員 A)

脱出ゲームは、活動だけ見るとアミューズメントですので誤解されますよね。

ですので、お楽しみも大事ですが、その着地点がどこにあるのかという太い考えを副題で出していくと誤解されることはないと思うのですよね。

どのプログラムもそれは意識化しておかないと、公金を使ってその程度かというようなものでは困りますので、もう一度そのあたりを意識されたいのかなという感じがしましたね。

(委員 B)

私も同じ意見です。

今、STEAM 教育が子どもたちの中に取り入れられて、活かされてきているなと思います。学校の授業を見ても感じます。一人一人が自分たちの力でいろいろなことを調べてやっている。お互いに認め合って高め合って、一緒に物を作っていく、それが今、学校の中では出来つつあるのかなと思っています。

婦人会の事業として縄跳びで学校の方に何校か入らせていただいています。ここ3年ほどの目標として、耐え抜く身体を作っていただくことがあります。そのために、まずは1年生でも自分一人で飛べるようになること、そのために講師の方の人柄も考えています。講師の方と1年生がどう接するか、お互いにどう思いやって跳べるようになるかも大事にしています。縄跳びは体幹も高めますし、これから数年は続けていこうと思っています。

先ほど、ジュニアリーダーのお話がありましたが、そういうふう子どもたちに寄り添っていた大人の姿が今見えなくなってしまうと思います。私たちは、こういう年代ですので、余っている時間を自分の健康も考えながらそういう方へ気持ちに向けていきたいと思っています。やっぱり、元気な子に育ってほしいという願いは皆さん方一緒だと思います。

(委員長)

子ども会について校区のPTAは抜けているところがないと思うのですが、町の子ども会はどのような状況ですか。事業もされているのですか。

(総合教育センター)

子ども会は、各町そのままあります。

事業は厳しくなっているところもありますね。子ども会に属する子どもがいない町も出てきていますので。

(委員長)

総会には出て来られているのですか。

(総合教育センター)

最近の総会は書面決議になっています。

(委員長)

それこそ、先日、書面決議で諮らせていただいた社会教育関係団体ですが、子ども会の方は公民館やオークタウン加西が無料で使えることはご存じなのでしょうか。

(総合教育センター)

はい、知っています。その際は、総合教育センターの所長名で出しています。

(委員D)

PTAの関係で、PTAの会員にならないという方がいらっしゃると耳にするのですが、そのような声はやはり現場から上がってきていますか。

(総合教育センター)

上がってきています。

(委員D)

子ども会は、小学校に子ども会の本部があるので、各町の名前はあるけど、町によっては子どもがゼロだったり子ども会の行事を全くやらなかったり、学校によって子ども会連絡協議会がいるのかなと言っているところがあったりしますよね。

それにプラスして、PTA の総会も書面でして、校長先生が PTA の皆さんが全体で集まって話をする機会もなくなってしまった、PTA の役員の成り手にも困ったという話をされていました。その辺の対策はなかなか難しいでしょうけど、何かお考えはありますか。

(総合教育センター)

対策まではいかないのですが、連合 PTA の会議では、こんな話で説得したといった情報交換はされています。ただ、PTA 自体が任意団体なので、入らないとおっしゃる方を無理に入れることは難しいかなというところですよ。

(委員 D)

おそらく、かなり急速に減少していくのでしょうね。これまでは、子どもが学校に行ったら当たり前で PTA 会員という暗黙の了解でやっていたのですが、入らなくてもいいとわかったら、一気にその動きが広がっていきそうな気がします。

そういったことで子ども会もなくなるのかなという心配が若干あります。

(総合教育センター)

実際に PTA がなくなっている地域もありますのでね。

(委員長)

明石市は、今、すごく PTA が少なくなっています。PTA がなくなったのに関連があるとは言えないですが、自治会がみんな大量に抜けてほとんど機能していないと聞きます。確かに任意団体ですし、何もできないといえど何もできないのですが、繋がっておくとラッキーだということを仕掛けていく必要があるのかなと思っています。例えば、たびたび集まって会議を夜やるのではなく、活動が便利になったり手抜きができたり、楽に活動ができるという研修会なんかがあってもいいのかなと思いました。

(委員 C)

ちょっと話が大きくなるかもしれませんが、日本の人口減少社会でも、今までと変えてはならないことと変えなければならないことがあると思うのですが、そこら辺の方向性が全然出てこないの、減っていくなあ、何で若い人は人との繋がりを求めないのだろうなあともモヤモヤしている、ここ 10 年ほどはずっとその状態が続いていると思います。

うちの村の小学生は片手に足りないくらいしかいないのですが、地域で活動すると言ったらみんな来てくれます。

自分たちの村で何をしたいかを子どもに聞いたら、川遊びしたいとか絶対新しいことを言ってくると思うのですがね。大人が変えていかなきゃならないところを変えないので、30~40 代ぐらいの親は自分たちが主体者になれなかったら嫌だと思います。

PTA がなかったら学校は困りますかね。校長先生どうですか。

(委員 E)

学校の規模とか、これまでの関わり合いとかによると思うので、私の意見になりますけど、西在田小学校はやっぱり PTA がいないと困ります。

そして、地域の方とも学習活動や地域行事を一緒にやろうということが増えてき

ているので、そこも切れたら困ります。小さい校区なので、いろいろな役員さんを兼ねられています。PTA の方も青少年育成会の方もふるさと創造会議の方も、どこかで誰かが繋がっている、そういうところなので、なくなったら困る組織です。

(委員 C)

言いにくいけど、学校が言うべきだと思うのですよ。学校は PTA や地域とこれだけ繋がっていて、助かる＝子どもたちにすごくいい影響があるということを、親に向けて言わないといけないと思います。損か得か、楽しんどいかで判断する人が増えてきていると思いますので、学校としては、そういう説明がいる時代になったのかなと思います。

小さい学校ほど、PTA や地域の方は本当によく助けてくださいますが、当たり前だと思っていたことを、あえて大事に育てていかなきゃならないかもしれないですね。

(委員 F)

中学校ですけども、本校の PTA は今のところ全員入っていただいています。先ほど PTA が集まる機会がないというお話がありましたけれど、そこは気になっていまずので、4 月当初に総会を開いています。内容は吟味して時間を短くしていますが、新しく PTA 会長になられた方や PTA 組織の紹介、それから学校のことをお知らせするという機会も重要だと捉えていますので、設けるようにしています。

夜の会合も吟味してできるだけ減らし、それから、組織自体も縮小化しています。本校も家庭数は減少傾向で、数年前と同じ組織では持ちませんので、相談したうえで、組織自体の縮小化は規約の改正も含めてやっています。

それはおそらくどの中学校においても同じ方向性で進んでいると思います。加西市は保護者や地域の方々が小中学校に対して非常に協力的な地域でありますので、いろいろなところで手助けをしていただいています。小学校に比べると中学校への出入りは少ないかもしれませんが、PTA の協力があつての校外行事や部活動ですので、感謝すべきところです。そういう意義や位置付けは、PTA の方が来られる場ではできるだけお礼も含めて伝えるようにしています。

ただ、先ほど、問題点として言われましたように、PTA 加入の辞退者が出てくる可能性は十分あります。ご理解いただくことはご理解いただいたうえで、判断は強要できないところですので、こちらとしてはできるだけ協力していただけないかと呼びかけをしていくしかないと思っています。

もちろん、今の状況に甘んじているわけではないですので、組織改革、それから事業内容の改革・見直しは、今後も続けていかなければいけないと感じています。

(2) その他

～事務局より説明～

5. 協議事項

(1) 「第 4 期加西市教育振興基本計画」について

(委員 D)

基本理念のところに「人生 100 年時代をたくましく創造的に生きる」とあるので

すが、どういう意味なのか、どういうねらいがあるのかをお聞きしたいです。その下の3本の矢のところに繋がるのかなと推測はできるのですが。

(事務局)

前回までは、この「たくましく」と「創造的」という言葉は入ってなかったので、100年時代をどうやって生きていくか、どういう意味を持たせようかという中で、「たくましく」と「創造的」という言葉を、選んだのではないかと思います。

後の3C次世代型人材育成というところにも繋がっていて、不透明な時代の中でどのように生きる力を身につけていくかというところに繋がってくると思います。

(委員A)

この3Cとは別にノーベル賞を受賞された本庶佑さんが「6C」ということをおっしゃっているのですよ。6Cをここにかぶせていくと、このたくましく創造的という一つのイメージになるのかなと思います。

私が附属小学校にいたときは、学習指導要領で生きる力を生き抜く力と読みかえてカリキュラムプランをやっていました。ここのたくましくというのは、非認知的能力ということをおっしゃっていましたから、粘り強く、先を見ながら、そしてお互いが育ち合っていくようなイメージなのかなと思うのですよね。

その辺は、6Cというものを参考にしながら、教育委員会の方で確認してもらえればと思います。

(委員C)

私は、たくましく創造的というと、個・自分がということがすごく大事なのだろうなと思いました。与えられたり予定されたりするものではなくて、自らという概念がすごく強いのかなと思います。自己実現や学び続ける、切り開くというのが教育目標3つの中に入っていますよね。そういうことかなと思っていました。

(委員A)

加西市には、歴史文化や埋蔵文化財、古墳がありますし、力入れてらっしゃって非常に素晴らしいなと思っています。20ページに埋蔵文化財整理室の整備とありますが、ここにいろんな収集したものを集約されるのですか。

(事務局)

移転後にそういった展示をちゃんとできるような形で計画したいと思っています。

(委員A)

思い切って加西市博物館を作られたらどうですか。

例えば、京都だったら、旧学校を更地にせずに、その校舎を活かした学校博物館があつたりします。泉中学校がどのぐらいの規模なのかわかりませんが、そこに多目的に博物館的機能を持たせるというのは大事なのかなと思います。

(事務局)

既存施設を活用するという形にはなるかと思いますが、文化財関係の委員からも学校施設を活用した施設のモデルがあるので、そういったところをよく研究して考えていくのがいいとご意見をいただいております。

(委員A)

そういうものがあると加西市に魅力を感じる人が多くなるのではないかと考えて

いますので、よろしくお願いします。

もう1点は、図書館の多様な利用体制の充実ということで、加西市の図書館と県の図書館とは繋がっていますかね。もっと言うと、国立国会図書館とは繋がっていますかね。

(事務局)

繋がっていると思います。

(委員 A)

19 ページに「ALT 等を講師に招き、子どもだけでなくあらゆる世代が英語に触れる」とありますが、これに関連して、市の窓口では通訳ボランティアの方がいらっしゃると思うのですが、加西市にいらっしゃるのは英語圏の方だけではないと思うのですね。そういう対応が、加西市の窓口でできていますかね。

(事務局)

国際交流協会さんの方に多言語で対応できる方々がいらっしゃいますので、そちらと連携することになります。

(委員 A)

例えば、福井県の武生市の中心校は40%が外国籍の方なのですね。しかも、英語じゃないのですよ。現実に合わせて英語に特化ということはもちろん大事なのですが、地域によって必要としている言語に対応できるようなシステムも大事だろうなと思います。

アメリカでの話ですが、1人の教師が3つの言語で授業をしているのです。アメリカだから英語だけかなと思ったら違うのですね。今どういう言語を必要としているかに合わせてクラス担任が決まるのです。加西市も場合によって、どのような言語を必要としているかを想定する必要があるのかなと思います。

(委員 C)

「ウェルビーイング」という言葉が1つ大きい柱で出ていますね。それを概念として見ると、子どものことが完全に抜けているのですよね。こども家庭庁が子どものウェルビーイングというのを出していると思います。それを考えたら、基本施策3のところを見ても大人のことで終わっているのがすごく違和感があります。

私がいる世界だけかもしれないですけど、ウェルビーイングという言葉は、子どものこととすごく注目されています。子ども時代に安全に安定した生活ができないから大人になっていろいろな問題を抱えているということは当たり前になっていることです。だから子どものウェルビーイングというところがすごく議論になっているのですけど。

柱のところから言うたらあかんと思うのですけど、生涯学習で目指すウェルビーイングと言ったら、市民の皆さんのウェルビーイングを目指さないといけないですよ。つまり、生涯学習の場や機会を提供することで、大人も子どもも皆さんが豊かに安全に健やかに暮らせるということです。もちろん、職員も先生方も大変な仕事をしてらっしゃるけど、ここは再検討された方がいいのではないかなと思いました。

(委員 A)

ロンドンの美術館や博物館に行くと子どもたちがいるのですよ。展示物の前で心

を奪われ、そこに学芸員の方が幼児、小学生に本気で説明しているのですよ。

委員Cがおっしゃったように、保育学会というのがありましてね、そこでも子どものウェルビーイングをものすごく強調しています。大人が幸せであれば子どもも幸せ、子どもが幸せであれば大人も幸せという双方向的なウェルビーイングという概念ですね。

(委員C)

それともう1点、今回、基本理念に「たくましく創造的」という言葉が入りましたよね。そのたくましく創造的という言葉はどこに反映されていますかと言われたときに答えられるようにしとかなないといけませんよ。

(委員D)

この歳になって読書の大事さを実感しています。この計画の中にも図書館の充実と書いてあるので、多様なニーズに対応していかれるのだと思いますが、ぜひとも、図書館は子どもたちが利用できるイベント等の発信をうまくしていただきたいと思っています。

(委員A)

ある地域では、子どもたちが書店に行って読みたい本を選ぶのですよ。そして、それは全部、市が買い取って、子どもが家に持って帰って読んだら図書館に置いてもうらということをしています。

(委員D)

うちの校区でそれをやろうという話は出ています。

こちらが本を買い与えるのではなく、子どもたちに選んでもらって買った方がいいのではないかという話になっています。

(委員C)

学校図書は完全に教育委員会負担ですか。それとも、PTA負担もあるのでしょうか。

(事務局)

PTA負担もあります。

(委員C)

小野市の場合は全部、教育委員会負担なのですよ。

本は、先生が選ぶのではなく、子どもたちに選ばせていました。

(委員A)

同じお金を使うのだったら、そういう視点でやるとウェルビーイングですよ。

(委員長)

小野市で公園の遊具を増やすという話になったときに、普通だったら大人が安全面や管理のことを考えて、この遊具を入れようと決めると思うのですが、子どもたちにシールを持たせて、子どもたちが一番楽しいと思う遊具にシールを貼っていく、また、いらないと思う遊具にシールを貼っていくような選び方をしたという話を聞いたことがあります。子どもの意見って大事ですよ。

(委員A)

そういう仕掛けをされると、加西市に住もうか、加西市で子育てしようか、加西

市の学校行こうか、加西市の本屋行こうかとなると思います。

(事務局)

玉丘史跡公園の遊具は、4パターンほど作って、各学校で子どもたちに選んでもらいました。

(委員C)

選択するということはものすごく人権に関わることだと思います。チャンスすら与えられないというのはウェルビーイングではないですね。

(委員長)

玉丘史跡公園の遊具は資料を見て子どもたちが選んだのですか。

(事務局)

パネルを用意して選んでもらいました。

(委員長)

実際に玉丘史跡公園に行って遊んでもらって、シールを貼っている姿とかを取材してもらったら、加西市が良いまちだなとなると思います。

(委員A)

小さいときからの取り組みが、国づくり、まちづくり、選挙、政治への関心を持つことに繋がっていきますよね。

(委員C)

実際に参画できる楽しさや繋がることの良さをわかっている人はPTAにも入るでしょうね。

(委員E)

生涯学習ってすごく広くて、自分に置き換えてお話を聞かせていただきました。学習の機会や場は、いろいろあったら楽しいけど予算面もあると思います。博物館なんてすてきなものができたら言うことないですけど、廃校利用でそういうコーナーができたら楽しいだろうなと思います。

図書館はすごく充実していると思うのですが、もっと大人が行かなくちゃなと思いました。子どもを連れて図書館に行ってお話を借りる習慣をつける、本屋さんに寄って1冊だけ買うみたいな、そういう生活ができたらいいなと思いました。

(委員A)

京都に漫画ミュージアムがありますね。小学校をリフォームした喫茶店もあり、あらゆる本や絵本があって寝転がって子どもたちが読んでいるのですよ。いい姿ですよ。図書館は陳列ではなく、寝転がって夢中になって読めるような雰囲気がいいですよ。

(委員E)

小学校では、床を絨毯敷きをしているのとキューブの椅子が入っているので、キューブの上に本を置いて読んでいる子がいたり、キューブに座っている子がいたり、寝転んでいる子がいたりします。

(委員A)

子どもたちがちょっと腰降ろしたくなる、居座りたくなる、そんな人の気持ちを引くようなデザインが大事ですよ。小さなブースをたくさん作ると人が集まりや

すいということもあります。

(委員長)

加古川の両荘みらい学園、あそこもいいですね。

市民と子どもたちの図書室が一緒になっている。だけれども、子どもたちは放課後には1回学校から出て、公民館側から図書館に入るというシステムになっています。防犯が本当にしっかりしていて、入った人と出た人の数が合わなかったら音が鳴ったりシャッターが閉まったりするようになっているそうです。

(委員 F)

私も加西の図書館に行くことがあるのですが、決して悪くないなと思います。内容も充実しているし、いろいろ活動もしてくださっています。それから、小中学校の方には出前図書と言って、毎年100冊ずつ定期的に配布と入れ替えをしてくださっています。図書館の中だけでなく小中学校の方にも出入りしてくださっていますので、こちらは感謝をしています。

先ほど、いろいろ立派な図書館のお話をされているのをお聞きして、加西市にそういうのがあればベストだと思いますが、市独自で持つのは非常に難しいことなので、近隣の地域にそういうものがあればいいのかなと思います。

根本的に人が読書から離れているというわけではないと思いますので、学校の方でも、本に触れる機会は、図書館と連携しながら設けていきたいなと思います。そして、ここは生涯学習の場なので、我々大人も積極的に本に触れていかないとだめだなというふうに感じました。

(副委員長)

図書館の方では、本当にいろいろ努力をされていて、おすすめ本にポップをつけて学校に置こうとか、今から学校で勉強することに関連する図書を学校に持って行こうとか、いろいろ工夫をされています。そんなことを多くの人に知ってもらいたいなということを思ったりもしています。

本当に図書館の委員さんも職員さんも積極的で、カードを持っている人を増やすことや、デジタル化を進めることを考えていただいております。今はデジタルの方が慣れている子もいると思いますが、是非とも紙の本で読んでほしいなと思っています。

基本計画では、地域と学校の関連というところが、どんどん深まっていくといいなと思います。加西の人は、自分の子どもじゃなくても、子どもたちのために動く資質を持っているのではないかと思います。

私が活動している狂言のグループでも、レクリエーションは子どもたちにお任せ、お食事やキャンプファイヤーは保護者たちにお任せと言ったら、それぞれに子ども同士、保護者同士で連絡を取り合って計画を作ってくれます。小さなグループでも自分たちで考えることや企画することが楽しいと思ってもらえるような人が増えてくるといいなと思っています。

(委員長)

皆さんたくさんの意見をありがとうございました。

本日はありがとうございました。

～事務局より社会教育委員の任期について説明～

6. 閉会（副委員長）

（副委員長）

今日は朝早い時間から、長時間ありがとうございました。

事業報告にも、多くの意見をいただきましてありがとうございました。今までのことがこれからの基本計画に繋がっていくものだと思います。これからの社会教育がより良いものになるように、思いついたことなどがありましたら事務局の方へご連絡いただいてもよろしいかと思います。

これを実現にこぎつけるように、私たちもできる限り協力を惜しまないでやっていこうと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日はありがとうございました。